

南伊豆、少女の学びと教え

—明治期の学生そして先生の記録から—

武子裕美

1 教育の変遷

1-1 学校教育

【江戸時代以前（中世）】

寺院が子供たちの教育を行うようになり、寺院に住んで学ぶ子供たちを寺子と言った。

【江戸時代】

寺子屋：庶民の教育 藩校：藩士の子弟など 郷学：武士や庶民 例：閑谷学校

私塾：漢学塾・習字塾・算学塾・国学塾・洋学塾など 例：松下村塾

洋学の導入→蘭学「蕃書調所」長崎を中心として幕府関係の洋学機関が発達、諸藩でも積極的導入、民間でも洋学の発達

【明治維新後】欧米の近代文化の導入

●明治4年

廃藩置県 文部省設置→近世からの諸学校+欧米の教育制度⇒学校教育制度の創始

●明治5年〈学制〉

大学創設計画：指導的人材の養成と欧米の学術・文化の摂取のための中心機関

- ・京都…学習院や皇学所・漢学所などを設置するが明治3年7月までに廃止、実現せず
- ・東京…昌平坂（国漢学）、開成学校（洋学）、医学校（医学）を総合して「大学校」

●明治12年〈教育令〉

小学校の教科

初等科（3年）：修身、読書、修辞、唱歌、体操

中等科（3年）：初等科+地理、歴史、図画、博物、物理、裁縫（女子）

高等科（2年）：中等科+科学、生理、幾何、経済（女子は家庭経済）

●明治23年〈教育勅語〉

●明治30年頃 小学校の義務教育化（4年制）

●大正期以降 中等教育以上の改革と拡充

●昭和16年〈国民学校令〉

国民学校 初等科：6年 高等科：2年

【太平洋戦争後】〈学校教育法〉

1-2 女子教育

【江戸時代】

男子の教育特別、奉公などによる行儀作法、手習いや読書、古典文学や諸芸能
裁縫・茶の湯・生け花・礼儀作法「たしなみ」

【明治維新後】

●明治5年〈学制〉 女児小学校、尋常小学校では主要教科のほか手芸も教授

●明治7年以降

西欧での婦人解放運動→日本へ波及 女子師範学校の設置
キリスト教宣教師による女子教育

●明治32年

女子の高等普通教育（4年制）

【第二次世界大戦後】

・教育基本法、学校教育法→男女共学

1-3 師範学校

●明治5年

東京に師範学校設立→各大学区に官立師範学校を設置→府県に師範学校が整備

●明治19年〈師範学校令〉

高等師範学校：東京に1カ所→尋常師範学校の校長および教員

男子師範学科：尋常師範学校卒業生、3年制

女子師範学科：尋常師範学校2学年修了者、4年制→明治23年女子師範学校

尋常師範学校：府県に1カ所→公立小学校の校長および教員

高等小学校卒業以上、17～20歳、4年制

●明治30年〈師範教育令〉

高等師範学校：東京に1カ所

女子高等師範学校：東京に1カ所

師範学校：道府県に1～数校

明治40年の女子師範学校は全国で19校、1,298人

※教員の待遇

●明治10年代前半

町村と教員との契約で、待遇に一定の基準なし

●明治13年

町村学校教員は地方官が任命する。明治14年には官吏待遇となる。

●明治30年～40年

中等教育の拡充に合わせて高等師範学校が拡充される

●大正～昭和3年

臨時教員養成所の設置

But.正規の資格（師範学校卒業、教員資格検定合格者）を持った教員は充分ではなく、代用教員が多かった。

●昭和18年〈師範教育令〉改正

戦時教育体制の下に国民学校との関係を重視

【太平洋戦争後】

国立の教員養成大学 教員免許制度→慢性的不足・無資格教員の解消を図るため

2 少女の学び

高橋みよ 経歴

出身：静岡県賀茂郡青市村（現南伊豆町青市）

明治32年 尋常小学校 1学年→入学（6歳カ）

明治40年 高等小学校 3学年→卒業

明治41年 静岡県女子師範学校 本科 1学年→入学（15歳カ）

明治42年（1909） 静岡県女子師範学校 本科 2学年

明治43年 静岡県女子師範学校 本科 3学年→卒業

明治44年 南上尋常高等小学校 訓導 着任（18歳カ）

【静岡県女子師範学校】

明治10年（1877）4月 静岡師範学校に女子模範学校を併設（明治13年廃止）

明治20年（1887）4月 静岡県尋常師範学校女子部として誕生（明治26年廃止）

明治32年（1899）4月 再設置

明治33年（1900）4月 静岡市西草深町224番地（現静岡県立静岡中学校）に移転

明治35年（1902）4月 第2附属小学校（女子部附属）を設置

明治38年（1905）4月 予備科を設置（1年制）

明治39年（1906）4月 静岡県女子師範学校として分離独立

本科3年、予備科1年

明治44年（1911）4月 本科第2部（高等女学校卒業生対象）を設置、本科第1部を4年制に変更（予備科廃止）

大正13年（1924）7月 静岡県安倍郡千代田村沓谷1丁目71番地（現静岡市立東中学校）に移転

大正14年4月 本科第1部を5年制に変更

大正15年6月 専攻科を設置

昭和6年（1931）4月 本科第2部を2年制に変更

2-1 少女の休暇と学び

【史料1】「休暇日誌」明治43年度 本科第3学年 高橋みよ《南伊豆町渡辺家文書10-2》

●少女の出発と帰省への想い

7月22日金曜日 晴天

白いカーテンをゆるがせて南の窓から緑の淡い涼風を送った。居眠をして居た人も、扇子をばたばたさせて居た人も俄に元気づいた様子、熱心に聞いて居た目を壇上から急にそらした。と、もう四時だ。

→講習会に出席しているが、これから実家に帰省するので講習会を中座する。

汽車は大仕込みだ。興津までは人の間へ挟まって小さくなって居た其の暑さといったらない。

駅毎に減って来る客は、富士あたりでは非常に少かったそれに日は漸く没するし大層涼くなって来た。富士川の上流に富士を眺められた。白縄の衣を着た時よろしいがまた今日の様に霞がかってぼっとして居る様も一入である。

沼津に着いたのが六時半頃。車で宿まで走らせた。

→静岡市から汽車で沼津へ

宿の変ったのに驚いた。しかし今更止める訳にも行かずしぶしぶながら泊る事にした。食後外出した。夕涼みの人で町は雑沓を極めて居る。町の夏の夕はこんなものかとはじめて知った。土産物を買ひ揃へて宿に帰った。東京に近いだけに何となく新しい空気が漂って居る様な気がする。

→沼津に宿泊

帰省！！ 帰省といへば勿論非常に楽しいがしかし去年の嬉しさに較べれば數等を減じて居る。何故であろう？ 家庭か？ 否？ 家庭は依然として慕はしい父母をつかひ弟首を長くして我を待つて居る。さらば故郷か？ 故郷には麗しい山川草木の濃緑をかざして歓迎するもの、犁鋤を友として培養に余念もない幼馴染の友もある。

希望がないのか？ 今年かぎりの休暇だから前のより二倍も多い。では行くべき方向に於ては何も異なる所はない。

さらば来り過去か。茲に於て初めて適中した。烟と共に遠くなった静岡には、四百余の慶々の児童が残つて居る。ある附属、附属は實に樂天地。この附属を後に見て五十里の故郷に帰着する事は、それ程忍ばれ様、幾度叫んだ事か、附属と、これが楽しい楽しい帰省の樂くない所以である。

傍線部：本科3年生は附属小学校の児童を教えているため、彼らと離れるのが寂しい。

→少女の心情が記される。

二重傍線部：今年で卒業であるため、休暇は去年の2倍。

→当時の師範学校のシステムが分かる。

以降、9月12日にまた師範学校に戻るまで毎日日記が記載されている。

●地元での学び

八月四日 水曜日 午前曇 午後晴

午後二時にもなりたれば兼ねて父母より許されたる講習会にと出掛けたり。会は明日より蓮台寺豆陽学校に開かるゝたれば道遠くて通ふこと能はず。されば一週間の間稲生次に逗留することゝなりて父と二人、一週間の用意をなして立ち出でぬ。

→地元での講習会に父とともに向かう。

八月五日 金曜日 曇天

教科書研究を少しばかりなして、想像を重ね講習会へと出掛けぬ。九時より初められき山間僻地なるにもかゝらず五十人余の会員ありき。講師なる方は文学士にしてまだ三十路に入らざる程の方なれども、知識は極めて豊富、加ふるに話の巧なればよく理解せられ誠に面白し。三時間なして十二時に終わりぬ。

→文学士の講師から、3時間の教授。8月11日まで受講する。その後免状授与式が行われた。

八月八日 月曜日 雨天

午後、大島に転任せられし出野先生の御来遊あり。大島の風俗習慣を伺ひておもしろかりき。

→逗留先で、恩師との再会。

講習会後もよく卒業した学校へ行き、オルガンを借りて練習していることや、先生方との交流が記される。

2-2 榛原郡・小笠郡・浜名郡の小学校に授業参観

【史料2】「榛原郡小笠郡浜名郡小学校の授業参観に付復命書」《南伊豆町渡辺家文書 10-41》
明治43年10月5日

私儀、御命ニヨリ十月二十五日ヨリ向フ五日間、榛原郡・小笠郡・浜名郡ノ別記小学校授業参観、相逐ゲ候ニ付、大略復命ニ及び候也

本科第1部第3学年高橋みよ→静岡県女子師範学校長有坂幾造殿

第1日 榛原郡川崎尋常高等小学校（現牧之原市）

第2日 榛原郡地頭方尋常高等小学校（現牧之原市）

第3日 榛原郡白羽尋常高等小学校（現御前崎市）

第4日 小笠郡堀之内尋常小学校（現菊川市）

第5日 浜名郡浜松町女子尋常高等小学校（現浜松市）

→教室の採光などの様子、どのように教授していたか詳しく記している。実際に尋常小学校を参観することで、教えている附属小学校との違いや、それぞれの教授法などを学んでいる。

3 少女の教え

【訓導】小学校、国民学校の正規教員の職名。

明治6年（1873）、大学教員を「教授」、中学教員を「教諭」、小学教員を「訓導」とした。

3-1 師範学校時代の教え

高等師範学校時代も附属の児童に教授していた。

【史料3】「発問につきて」《南伊豆町渡辺家文書 10-19》

適切なる発問法

児童に少しも無理が無く、且つある事物を教授してゆく上にも極めて好都合でその上時機がよいために、被教育者の興味を喚起するとか、また興奮せしめるとかという様な問いであつて、これは極めて大切で非常に難しいことである。運用して行くにはどうするかというと、決のことをよく念頭に置いて発問することが必要である。

1. 発達程度に応ずべし(中略)

2. 適當なる機会に提出すべし(中略)

3. 教授の進行に効あるべし(中略)

この点について注意する

→子供たちへの質問の仕方についてまとめる 子供を学ばせるためのリードの方法

【史料4】「尋常科第5学年綴方科教案」《南伊豆町渡辺家文書 10-9》

訓導：(卯「沼澤」) 教生：高橋みよ

六月二十三日 水曜日 第三時

一、題目 我が最も好メルモノ(朱書)愛スルモノ

二、目的 右教材ニツキ、有リノ條ヲ各自自由ニ描出セシメントス(攻略)

→一週間後模範文を出して、それぞれの文章の批評を行う。

他にも、行う授業について細かい授業案と訓導の先生からの添削が朱書きで記入される。

3-2 南上小学校の先生

明治44年(1911)静岡県女子師範学校を卒業した高橋みよは、静岡県賀茂郡南上小学校の訓導となる。

【史料5】「御届」《南伊豆町渡辺家文書 10-33》

私儀、本日加茂郡白濱村高橋喜太郎方ニ参ル可ク、翌十七日午後六時迄ニハ寄宿仕候ニツキ、此段御届申上候也、

明治四十四年九月十六日 加茂郡南上尋常高等小学校訓導 高橋みよ(印)

賀茂郡長 雀部威宣殿

→みよが南上尋常高等小学校の訓導であることが分かる。

【史料6】「尋常科第三学年教授案」《南伊豆町渡辺家文書 10-42》

尋常科第三学年教授案 第二学期第一週火曜日 九月三日(印「高橋」)

第一時 算術科

一、教材 筆算加減法復習

二、目的 前学期間ノ記憶ヲ新ニセンガ爲ニ復習シ、以テ新教授ノ場合ニ便セントス

三、教法 教科書中ノ問題ニ付、計算セシム 劣等生ヲヨク指導スルコト

二重傍線部：押された印鑑(ここでは記載していないが、使われている用紙も南上小学校の用紙)から、みよが教授していることが分かる。

傍線部：教える際の注意事項が書かれる。

→この教授案を見ると、三学年の授業の殆どを教授していることが分かる。

【表：南上尋常高等小学校 第三学年 時間割】

	月	火	水	木	金	土
1	算術	算術	算術	読方	算術	算術
2	読方	読方	読方	算術	修身	読方
3	修身	綴方	修身	修身	読方	綴方
4	手工	書方	裁縫	綴方	唱歌	体操
5	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫

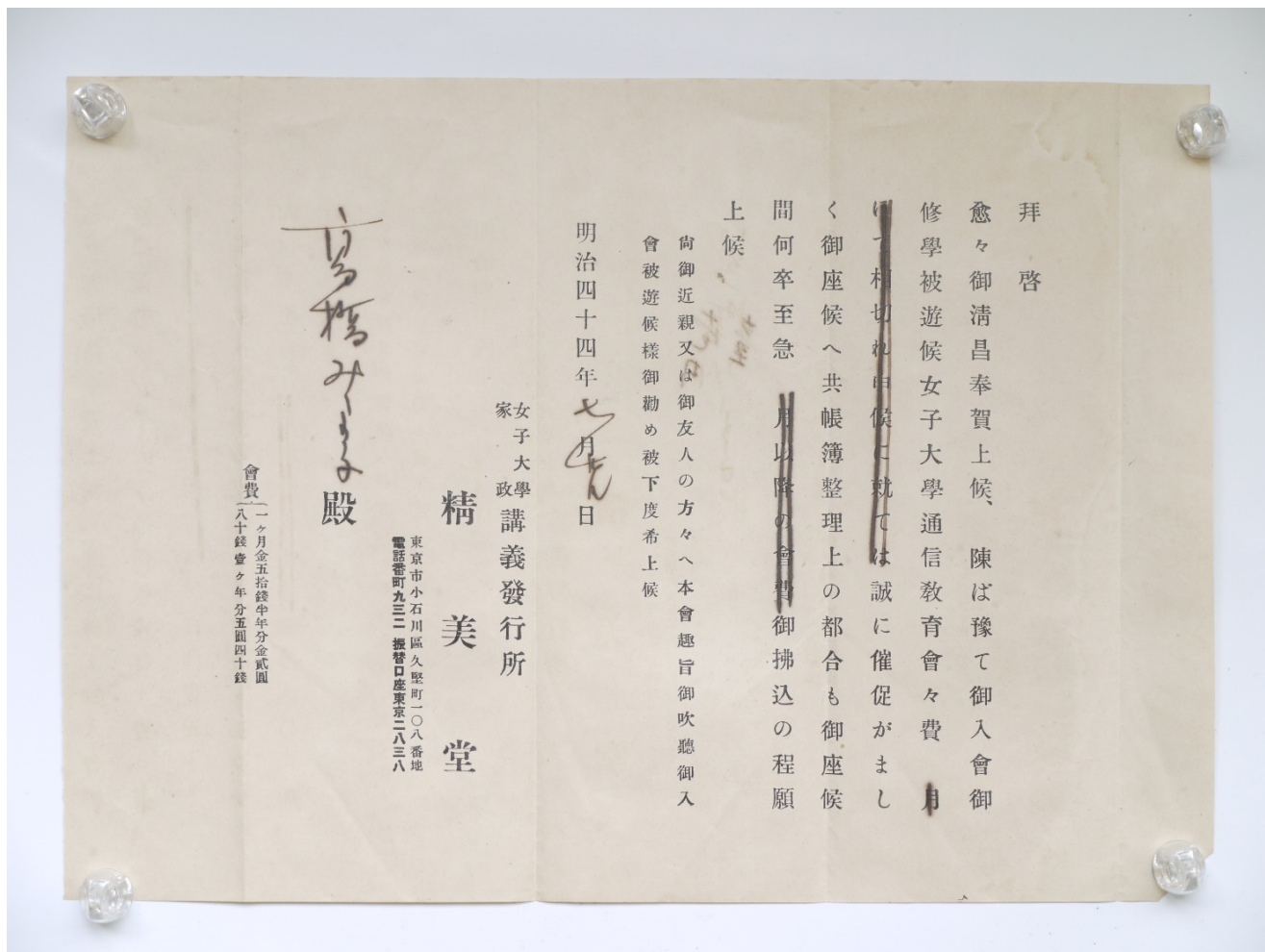
3-2 さらに少女の学び

【史料7】(書状、女子大学通信教育会費催促につき)《南伊豆町渡辺家文書 10-25-2》

拝啓

愈々御昌奉賀上候、陳ば豫て御入会御修学被遊候、女子大学通信教育会々費、誠に催促がまく御座候へ共、帳簿整理上の都合も御座候間、何卒至急御払込の程願上候

(後略)



拜啓

愈々御清昌奉賀上候、陳ば豫て御入會御
修學被遊候女子大學通信教育會々費、
相切れ申候に就ては誠に催促がまし
く御座候へ共帳簿整理上の都合も御座候
間何卒至急、
月以降の會費御拂込の程願
上候

尚御近親又は御友人の方々へ本會趣旨御吹聴御入
會被遊候様御勧め被下度希上候

明治四十四年七月廿日

女子大學
家政講義發行所

精美堂

東京市小石川區久堅町一〇八番地
電話番町九三二 振替口座東京二八三八

高橋みよ子殿

會費 一ヶ月金五拾錢 半年分金貳圓
一八十錢 壹ヶ年分五圓四十錢

『女子大学家政講義』という雑誌を発行している「女子大学通信教育会」の会員となっている。
⇒先生をしながらも、みよは学んでいる。

■チャレンジ！ 高等小学校での試験問題を解いてみよう■

※解答はありません

【算術科問題】《南伊豆渡辺家文書 10-5》

- 1, 三箇所に地面を持てる人あり。その総坪数 2600 坪にして乙地は甲地の $\frac{3}{2}$ 、丙地は乙地の $\frac{3}{4}$ なりという。各幾坪なるか。
- 2, 3 人の請負師共同して道普請をするに、甲は人夫 5 人を 12 日間、乙は 8 人を 9 日間、丙は 10 人を 6 日間出して、金 96 円を得たり。之を如何様に分配すれば宜しきか。
- 3, 9 人の工女、毎日 12 時間づつ 15 日間働きて織物 135 段を織るという。この割合にて何人の工女が毎日 10 時間づつ 8 日間働き手 120 段の織物を織るか。
- 4, 大工 54 人が 9 日間に仕上がる仕事を 2 日間に仕上ぐるには大工何人要するか

【第 2 年級歴史科試験問題】《南伊豆町渡辺家文書 10-6》

下記について説明しなさい。

1 保元の乱の結果

2 北条泰時の治績

3 左の人々の著しき事跡

イ：源頼政 □：懐良親王

4 左の事項を説明せよ

イ：一向宗 □：記録所